

飯盛山の謎に迫る

大学院生ら本格調査

白虎隊が自刃した悲劇の場所として広く知られる会津若松市の飯盛山。ここに古墳があることを知る人は多くないだろう。私有地にあるため、「私有地内の古墳」として歴史に詳しい人には知られていないが、実像は分かっていない。この「謎多き古墳」の学術研究が大学院生らによって本格的に進められている。詳細な測量調査による分析が始まっており、来年度以降に学会などで発表する予定だ。



機器を使って飯盛山で測量調査を行う小嶋さん（小嶋さん提供）

知る人ぞ知る「古墳」

歩いて15分ほどの場所には全長114mで東北有数の大きさを誇る前方後円墳の会津大塚山古墳がある。またもう一つ、近くに堂ヶ作山古墳もある。このうち会津大塚山古墳では約60年前に三角縁神獣鏡が出土した。関東と北陸の結節点として古代から重要視されていた会津盆地。飯盛山古墳の解明も期待されており、小嶋さんは「存在は知られているが、謎に包まれているのが飯盛山古墳」とし、「古墳周辺は会津盆地の出入り口で、一帯を見渡せる交通の要所。（古墳の調査を通じて）この地域を掌握していた権力者の実態に近づくことができれば一歩を進められる」。

飯盛山を管理している飯盛正徳さん（85）は「戦禍のためなのか、戊辰戦争より前から伝わる資料は残っておらず、分からないことが多い。解明されればうれしい」と小嶋さんらの研究に期待。「会津盆地を一望できる小高い山にある古墳。相当な人物の墓だったと思う」と思いを巡らせた。



古墳としての調査が進む飯盛山

調査が始まったのは今年春から。大阪公立大学研究科に所属する大学院生、小嶋健斗さん23を中心とする測量調査に、東北学院大や奈良大の学生8人が加わった。5月には現地で行われた。11日にわたる調査が行われ、紀前半ではないかと思う。会津若松市にある、簡易な測量は約30年前に実施されていたが、機器を使った本格的な測量は初めてだった。調査結果は小嶋さんが現

長さ60m、4世紀前半築造か

▲ 9月29日 福島民友新聞掲載

どんな人のお墓だったのでしょうか。
どんな歴史が明かされるのか、楽しみです。



記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。

(When) いつ調査がはじまった？

(Where) 飯盛山はどこにある？

(Who) 誰が調査？

(What) なぜ行われている？

(How) どんな内容が明らかに？

(Why)